

2016年度
上半期

防災特集

今年度の上半期に高知大学医学部附属病院にて開催された、
防災に関する講習や訓練についてご紹介します。
この他にも、高知大学医学部附属病院では
防災に関する様々な講習等を行っています。

第5回院内災害対応訓練講習会 (Disaster ABCコース)の開催

災害・救急医療学講座
特任教授
長野 修

5月15日(日)、第5回院内災害対応訓練講習会(Disaster ABCコース)を医学部実習棟3階で開催しました(主催:災害・救急医療学講座)。

災害医療教育プログラムは多数存在しますが、このDisaster ABCコースは災害時に多数の傷病者の受け入れを担う医療機関(救護病院や災害拠点病院)の全職員を対象とした初心者向けのコースです。災害対策本部やトリアージ、治療/搬送などのスキルステーションを全員が一通り経験することで、災害医療に関する全般的な理解を深めることができました。

今回の受講者は、歯科医師2名、初期研修医20名、看護師14名(学外者5名)の計36名で、医療人育成支援センターの協力により、1年目の初期研修医は全員参加することができました。62名のボランティア(看護学科学生等)が模擬患者役を担当し、インストラクターは外部講師6名とインストラクター補助として9名(本学DMAT隊員3名)が務めました。見学者31名(県内10施設)と運営スタッフ10名を加え、全参加者は154名でした。

また、医学部学生の災害医療研究会メンバー14名による避難所運営ゲーム(HUG:ハグ)も、昨年に引き続いて同時開催しました。これには、看護師10名(学外者7名)、事務職1名(学外者)、看護学科学生21名の計32名が参加しました。南海トラフ地震に際して

は住民による避難所の自主運営が必要であると指摘されており、避難所運営は県民の共通課題のひとつです。エコノミクス症候群や集団感染などの公衆衛生上の問題もあり、医療者としても避難所運営に無関心ではいられません。8月末に行われる研修医のサマーキャンプでは災害医療をテーマに取り上げるとのことで、若手医師の災害医療への意識は確実に向上しており、本講習会開催の意義は大きいと考えます。

昨年、高知県災害時医療救護計画が改訂され、災害急性期に負傷者の後方搬送が困難な局面においては、負傷者により近い救護病院や救護所での医療活動が重要として災害医療の「前方展開」が、また、医療者だけでなく住民も応急救護に参画する「総力戦」が必要になるとされました。そのために、医師を対象とした災害医療研修制度が本年秋にスタートします。この制度は、全ての医師が災害に備えるトレーニングプログラムを受け、「災害対応力」という2つ目の専門性を持つことの必要性を強調した、世界医師会のモンテビデオ宣言(2011年11月)の具体化であると言えます。県内外における災害医療教育の発展を望むばかりです。



トリアージ



全体訓練



上段/通信 下段/避難所運営ゲーム「HUG」

災害時における情報伝達訓練を実施しました

会計課

6月16日(木)、医学部では約30名が参加して情報伝達訓練を実施しました。

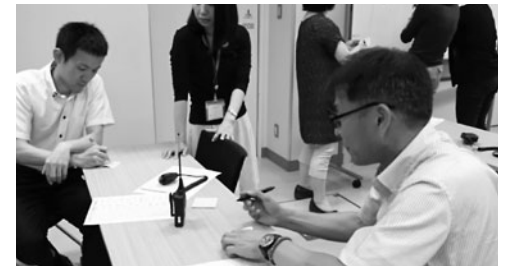
今回の訓練は、災害対策本部内実務を担当する事務職員を対象に、クロノロジー(時系列による記録)作成を重点としました。

まず、情報伝達に関する座学を受け、訓練コントローラーが提供する模擬情報を元に各自がクロノロジーを作成し、その作成したクロノロジーについて隣の席の者と交換を行い、互いに検証を行いました。

次いで、2班に分かれて先ほどと同じ模擬情報を用い、災害対策本部長・通信担当・ホワイトボード担当等に分かれ、クロノロジーの作成を行いました。

その後、5班に分かれ、先ほどとは異なる短い課題の情報伝達演習を繰り返し実施しました。まずコントローラー役の職員が班長を指名、班長はその他の担当を決定し、それぞれの担当が割り振られた後、トランシーバを介して提供される情報について、①受付(通信)⇒②集計(評価)⇒③記録(転記)の手順で進めました。演習ごとに振り返りを行い、次の演習に進むという方式で訓練を行いました。

当日は、訓練直前に北海道で大きな地震が発生したこともあり、緊張感を持って訓練を行うことができました。



トランシーバを通じて災害対策本部に寄せられる情報を付箋に記録する情報班員



付箋に記録された情報はホワイトボードに経時的に記録される

消火訓練・避難誘導訓練を実施しました

会計課



7月27日(水)、夜間に附属病院第一病棟1階から出火したとの想定で、消火訓練・避難誘導訓練を実施しました。



屋内消火栓で初期消火を行う



煙を警戒しタオル・マスクをして病棟から避難

マニュアルに従い、救急部当直医を自衛消防本部長代行とし、警備員・事務当直などの業務委託職員も参加して手順を確認しました。

時間外との想定で行われたため、病棟スタッフのほかは、薬剤部等の当直者4名のみが避難誘導の応援に駆けつけました。医師・看護師等のスタッフは懐中電灯、ヘッドランプを装着、煙に備え患者役も含めた全員にタオルやマスクを配布した上で避難しました。

スタッフは患者役に要所所で声掛けを行い、重症度の異なる患者さんを移動させるためスムーズな隊列を組むなど、これまでに積み重ねてきた訓練の成果を確認できた部分もありました。

実動終了後にはグループごとの振り返りに加え、全体振り返りを行い、熱心な意見交換が行われました。部署リーダーに訓練放送を聞く担当を割り振ったため、放送が行われている間は指示が出せなかった、避難完了報告時にスタッフの人数を言えなかった等の反省もありました。

今回は他病院からの見学者に加え、附属病院で実習中の看護学校の学生さんの見学もありました。将来看護師として勤務される際には、この経験を役立ててくれればと思います。今後も万が一に備え想定を変えながら、消火訓練・防災訓練に取り組んでいきますので、皆様のご理解・ご協力を願います。